

平成27年度目標管理シート

【教育部長 曾我 伸清】

| | | | | |
|------|-------------------------------------|------|------|-------------|
| 市の目標 | 将来都市像「人と人 人とみどりが響きあい 笑顔あふれる 東村山」の実現 | | | |
| 部の目標 | みんなが安心して楽しく学ぶ学校づくりと生涯学習により市民満足度を高める | | | |
| 部の概要 | 人員 | 127人 | 予算規模 | 3,573,817千円 |

【具体的な取り組み】

| No. | 課名 | 総計・行革 | 項目 | どの水準まで | どのような方法で | いつまでに | 進捗 | 成果又は課題 |
|-----|-----|-------|-----------------|--|--|----------|----|---|
| 1 | 庶務課 | 総計 | 小・中学校水飲栓直結給水化工事 | 小学校3校、中学校2校について水飲栓直結給水化工事を完了させる。 | 飲み水系統について、既存の貯水槽経由の給水方式を水道管からの直接給水方式に変更する工事を行う。 | 平成27年10月 | A | 平成27年9月末までに計画通り5校の水飲栓直結給水化工事を完了した。 |
| 2 | 庶務課 | 行革 | 省エネルギー活動の推進 | 教育部局におけるエネルギー消費原単位 平成21年度比5%以上減を維持（平成25年度 3.7%減） | 市が管理する施設においてエネルギー管理標準に基づき推進する。 | 年度末まで | B | エネルギー消費原単位について、対基準年度比、教育部局は108.7%で8.7%増となった。 |
| 3 | 学務課 | 総計 | 放射能対策事業 | 使用されている給食食材のうち1品目を毎週4校分、食材1食分を隔週で1校分検査し、結果を公表する。 | 簡易型放射性物質分析機器を用いて測定し、結果を市ホームページに掲載する。 | 年度末まで | A | 年間延べ180品目の学校給食食材について、放射能物質検査を実施し、検査結果を市ホームページで公表した。 |
| 4 | 学務課 | 総計 | 通学路の安全対策事業 | 市立小学校に通学する児童の安全や防犯のため、3校（大岱小・北山小・秋津東小）に下校時の児童通学確認員を配置する。 | 下校時未配置校3校に、緊急点検危険箇所要望の多い箇所から配置をする。 | 年度末まで | A | 児童通学確認員を計画通り小学校3校（大岱小学校・北山小学校・秋津東小学校）に配置し、小学校全校への配置が完了した。 |
| 5 | 学務課 | 総計 | 通学路防犯カメラ設置事業 | 通学路における児童の安全・防犯のために、市立小学校3校に3台ずつ防犯カメラを設置する。 | 不審者情報や犯罪マップ、緊急点検危険箇所要望の多い箇所等を精査し学校・警察・庁内関係所管と協議し、適切かつ有効な箇所に設置する。 | 年度末まで | A | 小学校3校（秋津小学校・久米川小学校・八坂小学校）の通学路上に各3台、合計9台の防犯カメラを設置した。 |

| No. | 課名 | 総計・行革 | 項目 | どの水準まで | どのような方法で | いつまでに | 進捗 | 成果又は課題 |
|-----|-------|-------|---------------|---|---|--|----|--|
| 6 | 学務課 | 行革 | 小学校給食の委託化の推進 | 残り1校となった直営校（萩山小）の、平成28年度からの民間委託開始に向けた準備を完了させる。 | 関係者・関係機関等と協議する。 | 年度末まで | A | 萩山小学校給食の民間委託に向けた準備を完了し、平成28年度から委託を開始することとなった。萩山小学校の委託開始により小学校全校の民間委託化が完了した。 |
| 7 | 指導室 | 総計 | 基礎学力向上推進事業 | <ul style="list-style-type: none"> 算数基礎ドリル「図形編」・「数量関係編」を学校で実践検証し完成させる。 数学基礎ドリル「中学校数学」（試作版）を作成する。 | <ul style="list-style-type: none"> 年9回開催の基礎学力向上推進委員会において、平成26年度作成の試作版ドリルの活用状況調査を行うとともに活用上の課題等を明らかにし、完成版を各小・中学校へ印刷・配布する。 中学校数学科において、数学基礎ドリル（試作版）の作成を行う。 | 年度末まで | A | <ul style="list-style-type: none"> 平成26年度版の算数基礎ドリルの活用を行い、内容の再検討や修正を通して完成版を作成した。 基礎学力向上推進委員会において検討を行い、数学基礎ドリル「中学校数学」（試作版）を作成した。 |
| 8 | 指導室 | 総計 | 学校図書館専任司書の配置 | <ul style="list-style-type: none"> 学校図書館の利用頻度を向上させる。 学校図書館専任司書の活用率を向上させる。 児童・生徒の読書量を増加させる。 | <ul style="list-style-type: none"> 学校図書館担当者連絡会との連携・協議を進め、年3回開催される学校図書館専任司書の研修会等を通して、情報交換及び有効な取り組み等の紹介を行うことで、自校の取組を充実させる。 学校図書館司書の配置・活用等に関する調査を実施し（6月・2月）、学校図書館の利用頻度、学校図書館専任司書への相談数、児童・生徒の読書量等を把握する。 | <ul style="list-style-type: none"> 年度末まで 平成27年6月、平成28年2月 | A | <ul style="list-style-type: none"> 学校図書館専任司書の研修会での情報交換や司書教諭との合同連絡会を通して、他校の良い実践を取り入れるなどの工夫を行った。 また、平成27年6月と平成28年2月に調査（小3・中2対象）を実施した結果、昨年度の2月と比較して、学校図書館の利用頻度は約5%、児童・生徒の読書量は約20%増加した。 学校図書館専任司書の配置により学校の捉える読書活動の充実度は向上した。 |
| 9 | 教育支援課 | 総計 | 特別支援学級通信体制の整備 | 特別支援学級職員室に設置したPHS端末を活用することで連絡体制を確保し、関係機関との連携を図りながら児童・生徒へのきめ細かな指導につなげる。 | 特別支援学級に設置されたPHS端末（8台）や固定電話（2台）を活用し、在籍する児童・生徒だけでなく、相談が進んでいる児童・生徒について情報交換を行う。 | 年度末まで | A | 特別支援学級職員室に設置したPHS端末を活用し、保護者や関係機関と連携を図りながら、きめ細かな指導を進めることができた。 |

| No. | 課名 | 総計・行革 | 項目 | どの水準まで | どのような方法で | いつまでに | 進捗 | 成果又は課題 |
|-----|-------|-------|----------------|--|---|--|----|---|
| 10 | 教育支援課 | 総計 | 通級指導学級整備事業 | 通級指導学級の円滑な運営を行う。 | 児童・生徒の障害等の程度に応じた指導及び適正な入級退級判定を行う。 | 年度末まで | A | <ul style="list-style-type: none"> 年間15回の判定会議を開催し、73名の児童・生徒について通級指導学級入級への判定及び支援について協議を行った。 その結果一人一人の教育的ニーズに合った支援を進めることができた。 |
| 11 | 教育支援課 | 総計 | 特別支援教育専門家チーム事業 | 障害などの理由により特別な教育的ニーズのある児童・生徒に対し、適切な指導・支援を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> 小・中学校1校あたり4～6回の専門家チーム委員による巡回指導を行う。 専門家チームの言語相談、医師相談会、各種研修会の実施を通して、指導助言を得る。 | 年度末まで | A | 年間108回の巡回相談、8回の言語指導、6回の医師相談会を実施することに併せて、研修会や連絡会を通じて、専門家チーム委員より指導・助言を頂き、特別な教育的ニーズのある児童・生徒の適切な指導・支援を行った。 |
| 12 | 教育支援課 | 総計 | 教員サポーター派遣事業 | 市立小・中学校全校に特別な教育的ニーズのある児童・生徒が在籍する通常学級で担任を支援する22名の教員サポーターを派遣し、学級の円滑な運営を図る。 (平成26年度 20名) | 教員サポーターの育成及び指導方法の充実を図るため、研修会を実施する。 | 年度末まで | A | 22名の教員サポーターを22校に配置するとともに、年3回の連絡会において、研修を実施し教員サポーターの資質の向上を図り、特別な教育的ニーズのある児童・生徒の在籍する学級の円滑な運営のサポートを行った。 |
| 13 | 教育支援課 | 総計 | 特別支援学級整備事業 | 平成28年度より大岱小学校に特別支援学級を開設するため、必要な準備を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> 特別支援学級の学区域の見直しを行う。 開設に必要な施設上の設備・備品等を整える。 | <ul style="list-style-type: none"> 平成27年6月 年度末まで | A | <ul style="list-style-type: none"> 大岱小学校への特別支援学級の開設に伴い、特別支援学級の学区域の見直しを行った。 学区変更の対象となる児童が在籍する東菰山小学校青葉学級保護者への説明会を平成27年6月に実施した。 開設準備委員会を設置し、平成27年度中に5回開催し、必要な施設上の設備や備品等を整え開設に向けた準備を完了させた。 |

| No. | 課名 | 総計・行革 | 項目 | どの水準まで | どのような方法で | いつまでに | 進捗 | 成果又は課題 |
|-----|-------|-------|------------|---|---|---|----|---|
| 14 | 教育支援課 | 総計 | 不登校対策事業 | 不登校児童・生徒及びその傾向にある児童・生徒の未然防止及び早期問題解決に向け、個々の状況に応じた対応を図り、一人でも多くの不登校児童・生徒の学校復帰を図る。 | スクールソーシャルワーカーを配置し、児童・生徒が置かれた様々な環境へ働きかけたり、関係機関とのネットワークを活用し、対応方法の検討や助言、登校支援を行う。 | 年度末まで | A | <ul style="list-style-type: none"> ・不登校児童・生徒の実態及び学校の対応を把握するため「学校不適応状況調査」を見直し個々のケースにあわせた「東村山市不登校児童・生徒個人指導票」を作成した。 ・提出された個人指導票の分析を行い、不登校改善のための支援について各校と協議を進め、面談等を行いながら、学校復帰など不登校児童・生徒の状態の改善を図った。 ・学校や保護者に対しスクールソーシャルワーカーの活用方法についてのリーフレットを配布し、周知を図った。 |
| 15 | 社会教育課 | 総計 | いのちの教育推進事業 | 「市民の集い」において、内容の充実を図り、小・中・高校生や保護者・地域・行政が連携し、更なる心の教育の推進を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・取り組みの趣旨を踏まえ、プログラムを充実するべく、内容の検討を行う。 ・心の教育を広く周知すべく、各団体等と連携し、ポスター・チラシの周知方法を工夫する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・平成27年12月 ・平成28年1月 | A | <p>学校・家庭・地域・行政の4者が連携・協力して、市民と児童・生徒に「いのちの大切さ」「人を思いやるこころ」等を踏まえた、「いのちの教育」を東村山全体で、推進した。市民センターで実施し、参加者数は延べ250人であった。</p> |
| 16 | 社会教育課 | 総計 | 放課後子ども教室 | <ul style="list-style-type: none"> ・平成23年度に新規開設した富士見小学校の安定実施を図る。 ・平成28年度以降の新規開設の検討。 | <ul style="list-style-type: none"> ・コーディネーター、教育活動サポーターの確保と適正配置を行う。 ・空き教室の確認等について関係機関と協議する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・年度末まで ・平成27年10月 | A | <ul style="list-style-type: none"> ・教育活動サポーターの募集チラシの作成、各地区への配布をしたことにより登録者も増え、事業を安定的に実施した。 ・平成28年度以降の新規開設を関係機関と協議した結果、空き教室の確保等が難しく、当面は現状維持（4校）となったが、子ども・子育て支援事業計画に平成31年までに整備促進を進めていくことを位置づけた。 |

| No. | 課名 | 総計・行革 | 項目 | どの水準まで | どのような方法で | いつまでに | 進捗 | 成果又は課題 |
|-----|-------|-------|------------------------------|---|---|---------|----|--|
| 17 | 社会教育課 | 総計 | 生涯学習計画 | 目指すべき方向性を実現するために、現状・課題について検証し、進捗状況シートを作成することで、生涯学習計画を推進して行く。 | 社会教育委員と連携を図り、現況把握を行う。 | 年度末まで | A | 目指すべき方向性を実現するため社会教育委員と連携を図り、進捗状況シートを作成することで現況把握ができ、計画を推進できた。 |
| 18 | 図書館 | 総計 | 子ども読書活動ボランティア養成事業 | 新規ボランティアを募集し、子どもの読書に関わる市民を対象とした講座や研修会を開催して参加者を集めるとともに、200回以上のボランティア派遣を行う。 | 「東村山子ども読書連絡会」等のボランティア活動充実に向けた取り組みによる人材育成や関連施設等との連携を進め、「市立図書館子どもと本の人材バンク」の活用を図る。 | 年度末まで | A | <ul style="list-style-type: none"> ・新規ボランティアを募集し、研修等を通じて13名の登録につなげた。 ・「東村山子ども読書連絡会」（年2回開催）、「ボランティアのための『子どもと本を知る』講座」（全6回、参加者延べ188名）等の講座や研修会を実施し、読み聞かせボランティアに対する支援を行った。 ・「市立図書館子どもと本の人材バンク」の活用により、延べ324回のボランティア派遣を行い、読み聞かせ等の活動を活性化することができた。 |
| 19 | 図書館 | 総計 | インターネットを活用した中央図書館における情報提供の充実 | 中央図書館に設置した利用者用インターネットパソコンの利用促進と、オンラインデータベースによる正確な情報提供を迅速に行う。 | 図書館ホームページや館内掲示によりオンラインデータベースの利用案内を行う。 | 年度末まで | A | <ul style="list-style-type: none"> ・図書館ホームページや、館内掲示、チラシ配布のPRの結果、通年での利用実績が前年度に比べインターネット用パソコンが2%増、オンラインデータベースが114%増となった。 ・その結果、インターネットを活用した正確な情報提供を充実させることができた。 |
| 20 | 図書館 | 総計 | 中央図書館耐震診断事業 | 中央図書館の耐震性を確認する。 | 耐震補強方法の調査を行い、報告書を取りまとめる。 | 年度末まで | A | 耐震診断を実施し、部分的に補強が必要であることが判明した。そのため、耐震補強工事の実施設計を次年度に行うこととなった。 |
| 21 | 公民館 | 総計 | 中央公民館耐震改修事業 | 耐震基準に適合した改修を行う。 | 平成27年度入札で施工業者を決定し、実施設計に基づき施工を行う。 | 平成28年2月 | A | 平成28年2月に耐震基準に適合した耐震化・改修工事が完了した。 |

| No. | 課名 | 総計・行革 | 項目 | どの水準まで | どのような方法で | いつまでに | 進捗 | 成果又は課題 |
|-----|---------|-------|------------------------------|--|--|-------|----|--|
| 22 | 公民館 | 行革 | 公民館の運営形態の見直し | 公民館のあり方・運営形態の見直しに向けた方向性を決定する。 | <ul style="list-style-type: none"> 平成26年度の検討結果を踏まえ、公民館運営審議会で審議していただく。 公共施設再生計画と連動した施設機能の整理を行う。 | 年度末まで | B | <ul style="list-style-type: none"> 公民館運営審議会において、平成26年度の検討結果、各市への調査結果等に基づき、公民館のあり方・運営形態の見直しに向けた審議をしていただいた。 見直しの方向性については、継続して審議していくこととなった。 |
| 23 | ふるさと歴史館 | 総計 | 下宅部遺跡出土漆工資料の国重要文化財指定に向けた取り組み | 市の内外に下宅部遺跡の重要性をアピールするために、講座・講演会を行い、参加者数を500人以上とする。 | ふるさと歴史館主催の講演会その他、国立歴史民俗博物館等の市外の博物館やテレビ、新聞社などに情報を提供する。 | 年度末まで | A | <ul style="list-style-type: none"> 講座・講演会への参加者数699人 上半期 企画展の展示説明会、たいけんの里での講座、青森県八戸市での講座など212人 下半期 国立歴史民俗博物館のフォーラム、漆サミット、東村山考古学講演会など487人 市外の博物館等への資料貸出や写真提供6件、NHKとJ:COMの取材3件 上記の取り組みを行った結果、下宅部遺跡の重要性をアピールすることができた。 |